

2020年度
(令和2年度)

事業報告書

目次

I	2020年度事業報告	2
	1. 国内における平和構築活動	2
	2. 海外における平和構築活動	11
	3. 財務体質の強化	14
II	組織	15
III	会議	18



公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟

Peace for Tomorrow 広げよう平和の心

2020 年度事業報告にあたって

2020 年度は、全世界が目に見えない恐怖—『Covid-19』と呼ばれる新型コロナウイルスのまん延に、苦しみ続けることになりました。

70 余年を誇る民間ユネスコ運動の歴史において、経験したことのない状況に直面し、輪番制導入後、初となるはずだった山口県宇部市でのユネスコ運動全国大会をはじめ、ブロック別研究会（ブロ研）、その他地域の多くのイベントや行事も苦渋の選択を迫られ、中止となりました。収束が見えず“正解”も分からないまま、民間ユネスコ運動にとっても試練の年となったのです。

そのような中、知恵を絞り、できることをできる形で実施するよう努力をした結果、理事会は昨年 9 月以降、全てオンラインにて、また評議員会は書面にて開催しましたが、幸いにも今まで以上に多くのご意見が寄せられるようになりました。また、ブロ研の代替としてオンラインで開催した「ブロック別代表者会議」は、9 つのブロックで延べ 150 名以上が参加し、久しぶりの再会に喜びつつ、活発な意見交換を行うことができました。

2019 年度に参加した高校生たち自らが企画立案し、カンボジアの支援先や学習者たちをオンラインで結んだ「カンボジア オンラインスタディツアー」という新たな形の事業も実施しました。また、新規事業である「リーダーセミナー」もオンラインで開催し、さらに、「グッドプラクティス賞」にはコロナ禍での取り組みを含め、3 つのプログラムが選ばれました。

対面での交流には及びませんが、オンラインには“交通費をかけることなく”、“異動や宿泊の時間を割くことなく”、自宅に居ながらにして遠方の方々／海外の方々とも繋がる事が出来るというメリットがあります。

そして、各地域でも、苦しい状況下にあっても感染防止に最大限配慮しながら、オンラインでの講演会や演奏会等、多彩な事業が展開されたことは、私たちの誇りです。

『With コロナ』の“闘いの年”であったとも言える 2020 年度が、民間ユネスコ運動にとって、国内外における『Post コロナ』に向けた大きな転換点の“第一歩”となることを心から願ってやみません。

I 2020 年度事業報告

1. 国内における平和構築活動

(1) 普及実践活動

UNESCO憲章の理念に基づき、平和な世界の構築を目指す。また、国連が定めた持続可能な社会の構築のために、以下の各事業を実施した。

① 第76回日本ユネスコ運動全国大会in宇部

2020年7月4日の開催に向けて準備を進めてきた同大会は、山口県ユネスコ連絡協議会及び宇部ユネスコ協会と協議の上、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止とした。なお、宇部ユネスコ協会にて、講演予定者の動画の編集・制作を予定している。

② ブロック別ユネスコ活動研究会

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、各ブロックの主管ユネスコ協会・連絡協議会と協議の上、本年度の研究会は全ブロックで開催中止とした。これに替えて会員相互の情報交流の一環として、「ブロック別代表者会議」を日ユ協連主催でオンラインにて開催し、延べ150名以上が参加した。

中部西ブロック代表者会議	2020年11月6日
中国ブロック代表者会議	2020年11月12日
近畿ブロック代表者会議	2020年11月25日
関東ブロック代表者会議	2020年11月27日
四国ブロック代表者会議	2020年12月2日
九州ブロック代表者会議	2020年12月11日
中部東ブロック代表者会議	2020年12月13日
北海道ブロック代表者会議	2021年1月28日
東北ブロック代表者会議	2021年1月29日

③ 民間ユネスコ運動の日

1947年7月19日のユネスコ運動発祥の日を記念し、ユネスコ活動普及のための全国一斉キャンペーン活動が計画されたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、ほとんどの協会では中止とした。また、実施した協会では、オンラインを活用した高校生対象の平和学習会など、ウィズコロナ時代に対応した新たな取り組みが行われた。

④ 日本ユネスコ協会連盟リーダーセミナー

各地のユネスコ協会・クラブの実務担当者やこれからの民間ユネスコ運動の担い手を対象に、全4回のセミナーをオンラインにて開催し、各回15～30名の参加があった。なお、テーマごとのフォローアップの提案に基づき、21年度にフォローアップの実施を予定している。

- ・ 第1回「ユネスコ活動に役立つIT講座 － Zoomを使いこなす」
2021年2月6日(土) 13:30～15:30
- ・ 第2回「『わたしの町のたからもの絵画展』を活用した地域学習」
2021年2月21日(日) 13:30～15:30
- ・ 第3回「日本にいる外国人・外国ルーツの子どもたちと内なる国際交流」
2021年3月6日(土) 13:30～15:30
- ・ 第4回「地域・学校連携の活用」
2021年3月20日(土) 13:30～15:30

⑤ ユネスコ活動 グッドプラクティス賞

「ユネスコ活動が抱える課題を解決するヒントは、ユネスコ協会・クラブの中にある」という趣旨から、他のユ協のモデルとなる活動を奨励する「グッドプラクティス賞」を今年度より制定し、以下の団体が受賞した。

応募期間：2020年12月～2021年1月末、応募件数：18団体

受賞団体：3団体

- ・ 札幌ユネスコ協会 「2020ユネスコカレンダーリサイクル市」
- ・ 豊橋ユネスコ協会 「ESD学校支援と地域連携活動」
- ・ 箕面ユネスコ協会 「持続可能な社会の担い手を育む地域ユネスコ活動～ネットワークで創る支援活動や総合的な学習～」

(2) 青少年活動

UNESCO憲章の理念に基づき、持続可能な社会、「誰一人取り残さない」社会づくりを目指し、児童・青少年の健全な育成のために以下の各事業を実施した。

① 被災地における青少年を対象とした教育復興支援

A) ユネスコ協会就学支援奨学金

東日本大震災により経済状況が悪化した家庭の子どもを対象に、給付型奨学金制度（一人当たり2万円/月・3年間）を継続して実施した。

2020年度は、2018年度・2019年度に採用した奨学生への2年目、3年目の給付および2020年度に新規採用した奨学生への1年目の給付を行い、計508名を支援した。

2020年度支援した地域：

岩手県/大槌町、山田町、陸前高田市

宮城県/石巻市、女川町、気仙沼市、東松島市、南三陸町、山元町、亶理町

福島県/富岡町

B) MUFJ・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金

三菱UFJフィナンシャル・グループと協働で、東日本大震災で遺児孤児となった子どもたちが高校を卒業するまでの長期にわたる「奨学金プログラム」を継続して実施した。2020年度は、全国各地で生活している363名に奨学金を給付した。

C) 「ユネスコ協会就学支援奨学金レポート2019」の制作

ユネスコ協会就学支援奨学金の募金者や会員などに対し、当事業の成果を報告するために「ユネスコ協会就学支援奨学金レポート2019」を6000部制作し、配布した。

② 次世代育成のための青少年活動の支援

A) 「ユネスコ協会SDGsパスポート」事業

世界や地域社会の課題に向けたボランティア活動参加促進ツールとして、児童・生徒を対象にパスポートを配布する「ESDパスポート」事業は、「ユネスコ協会SDGsパスポート」事業としてリニューアルした。2020年度は、北海道から沖縄まで、全国25のユネスコ協会が参加し、パスポート印刷データを提供すると同時に、活動認定書の発行等を行った。

B) 青少年ユネスコ活動助成

日ユ協連の「ビジョン・ミッション」に基づき、各地ユネスコ協会・クラブで実施する青少年向け新規事業を対象に、公募し助成を行った。

■第1次青少年ユネスコ活動助成

分野1 青少年へのユネスコ普及活動事業

・助成額：1協会上限5万円 対象28事業（内9事業中止）

分野2 ユネスコ協会に所属する青年会員が中心となつて行う社会的課題の解決等に資する事業（申請者は青年会員のみ）

・助成額：1協会上限10万円 対象7事業（内2事業中止）

分野3 ユネスコスクールや学校内ユネスコ活動とユネスコ協会の連携強化に資する事業

・助成額：1協会上限5万円 対象2事業

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、事業の中止・延期が相次いだことから、第2次募集を行い、分野2は1事業、分野3は2事業が追加対象となった。

また新たな緊急措置として分野4「新型コロナウイルス感染症対策事業」を追加し、13事業を助成した。

分野4 新型コロナウイルス感染症対策事業（地元の諸団体との共同事業でも申請可能）

・助成額：1協会あたり上限20万円 対象13事業

③ スタディツアー

A) 内閣府の青年国際交流事業に対する青年会員の推薦

内閣府が実施する青年国際交流事業に対し、ユネスコ協会・クラブの会員の中から参加希望者を募集したが、新型コロナウイルスの影響で、第2次選考の前に全事業の中止が決定した。

B) 高校生を対象とした「カンボジア オンラインスタディツアー」の実施

2020年度は、2019年度参加高校生による企画・立案により、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、2021年1月30日（土）にオンラインで実施した。

カンボジア事務所や現地の寺子屋など、民間ユネスコ運動による国際協力の現場を中継でつなぎ、「寺子屋リーフレット制作プロジェクト」参加校21校

（小・中・高）のうち、希望する9校約100名の児童・生徒を対象に、国際理解を深める機会を提供した。

ダイジェスト版を作成し、動画配信により、いつでも誰でも視聴できるようにした。

【協賛：公益財団法人かめのり財団】

④ ユネスコスクールの普及活動

株式会社三菱UFJ銀行の協力を得て、青少年へのユネスコ活動普及のために、全国のユネスコスクールを対象にSDGsへの取り組みを支援する「第12期ユネスコスクールSDGsアシストプロジェクト」を実施した。

2020年度は、申請81校のうち79校に対して助成を行った(上限10万円：76校、30万円※：3校 [※上限30万円枠：2年間の継続的な事業を対象として、2019年度新設])。

また、12月6日に開催された「第12回ユネスコスクール全国大会／ESD研究大会」には、約800名の教員等が参加した。「学校・地域社会・行政の有機的連携によるESDの実践」をテーマとした分科会を日ユ協連が担当した。

⑤ 寺子屋リーフレット制作プロジェクト

小・中・高等学校の児童・生徒が非識字という世界的課題を学び、考え、世界寺子屋運動への書きそんじハガキ回収による協力を呼びかけるリーフレットを、デジタル機器で制作した。全国から「カンボジア オンラインスタディツアー」に選ばれた学校を含む、21校2,300名の児童生徒が参加した。

⑥ 教員研修会

A) 第7回「アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム」

アクサ生命保険株式会社の協力を得て、東日本大震災などの被災地の経験や教訓を全国の学校の減災教育に活かすことを目的に、小学校、中学校、高等学校を対象にプログラムを実施。特にこれまで行ってきた被災地訪問や対面での研修については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から全てオンラインにて実施した。

- ・減災教育に取り組む学校を公募し、24校を採用。1校につき10万円の活動助成金を支援した。
- ・9月24日～25日 助成校の教員38名を対象にした研修会を気仙沼市や多賀城市と中継でつなぎ、被災地の教訓やESD/SDGsの視点をもとに「持続可能な社会の創り手」を育成する減災教育の進め方について学ぶ機会を提供した。
- ・2021年2月19日 活動報告会を開催し、助成校の教員35名が参加した。
- ・2021年2月20日 減災教育フォーラムを開催し、全国から130名の教員等が参加。「被災地の教訓から学ぶ」をテーマに、被災校舎(震災遺構)のバーチャル視察や、4種類の災害の事例や教訓の共有・発信を行った。
フォーラムの様子は動画にてライブ配信をした。

⑦ ユネスコユースセミナー(フォーラム)

全国的青年連絡組織が主催で、青年活動全国大会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、中止した。

⑧ みどりの絵コンクール

環境意識の啓発を目的に、公益財団法人三菱 UFJ 環境財団との共催で、第 45 回「みどりの絵コンクール」を実施した。当コンクールへの応募総数 23,000 点の中から、最優秀賞 9 人・優秀賞 32 人・入選 358 人を選考した。なお、例年、東京都千代田区で行われる最優秀賞の表彰式は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、中止した。

⑨ 第14回「三菱アジア子ども絵日記フェスタ」の共催

三菱広報委員会、アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟 (AFUCA) との共催で、国際理解の促進を目的に、アジア 24 の国・地域の子どもたちから絵日記作品を募集した。第 14 期は 66,473 作品が集まり (日本からは 5,620 作品)、国際選考会を経て、各国・地域のグランプリが決定した。

なお、2020 年 10 月に予定されていた横浜市での表彰式は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止したが、10 月に同市でグランプリ作品の展示会を開催した。

(3) 組織の拡大とユネスコ活動の充実

民間ユネスコ運動に携わるボランティアの更なる育成強化をはかるために、以下の事業を実施した。

・地域ユネスコ活動支援

地域の民間ユネスコ活動推進のための青少年ユネスコ活動助成を実施した。

・日本ユネスコ国内委員会との協働

地域ユネスコ活動の推進の観点から、日本ユネスコ国内委員会の各種会合に民間ユネスコ運動に関する情報提供等を行った。また、今年度から文部科学省が開始した「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」に運営協議会のメンバーとして参画し、各種事業 (オンラインによるリレートーク第2回2月8日、第3回2月26日、全国セミナー3月6日等) に登壇し、発表するなど協力した。

・ユネスコ協会活動振興のための顕彰

ユネスコ活動グッドプラクティス賞を実施した。

- ・ユネスコ協会設立の勧誘と支援

新規ユネスコ協会設立を支援し、富谷ユネスコ協会（宮城県）、一戸ユネスコ協会（岩手県）が新しく加盟した。

- ・ユネスコへの情報発信

各地のユネスコ協会・クラブに、ユネスコ協会便を通じて、日ユ協連からの情報を発信した。また、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から対面の活動が制限される中、オンラインによる各種会議開催を試みた。さらに、日本ユネスコ運動全国大会やブロック別ユネスコ活動研究会の中止をうけ、ユネスコ協会・クラブに対する情報提供や情報共有の一貫として、「SDGs に貢献する民間ユネスコ運動」シリーズをはじめとする動画配信を行った。

- ・「絵で伝えよう！わたしの町のたからもの」

各地ユネスコ協会・クラブで行われる上記事業への会長賞の賞状授与を行った。

- ・ユネスコ運動推進のための研修

日本ユネスコ協会連盟リーダーセミナーを実施した。

(4) 普及広報活動

一般市民に対し、当連盟の事業を分かりやすく伝える広報を行った。また、活動レポート等を制作し、募金者への配布ならびにホームページ上で公開し、報告を行った。

① 広報活動

機関誌「ユネスコ」の季刊/年3回発行、活動レポート発行、パンフレット制作・配付、ホームページ更新、広報特使等との協働、書きそんじハガキ・キャンペーンの呼びかけ、遺贈に関する広報、3.11の広報・募金施策等を行った。

② その他の関連事業

ユネスコ活動や、スポーツを通じての平和のメッセージの広報を目的に、都市対抗野球大会の優勝チームに「日本ユネスコ協会連盟フェアプレー賞」を授与した。

(5) 世界遺産・地域遺産の保全活動

世界遺産及び地域に残る有形・無形の文化や自然の価値を広く一般に伝え、保全を推進した。

① UNESCOの世界遺産普及のための広報活動

「PIECE OF PEACE『レゴ®ブロック』で作った世界遺産展 Part4」、世界遺産カレンダー制作協力、世界遺産紹介記事執筆、世界遺産に関する各種問い合わせ対応などを引き続き行った。

② 未来遺産運動

100年後の子どもたちに地域の有形・無形の文化や自然を継承するために、地域で活躍する団体を顕彰し、応援することを目的に2009年より継続実施。

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、現地調査が困難であるため「プロジェクト未来遺産」の新規登録は中止としたが、専門家で構成されるワーキンググループを2回開催し、2021年度の方向性について検討を行った。

また、東日本旅客鉄道株式会社とともに、「プロジェクト未来遺産」との連携、広報強化を行った。

③ 「首里城復興ユネスコ募金」の実施

首里城の復興支援に向けた募金活動を実施した。10月30日、沖縄県（県庁）および一般財団法人沖縄美ら島財団の2カ所にて募金の贈呈式を実施し、玉城デニー沖縄県知事や花城良廣財団理事長らの出席のもと、10月23日までに集まった募金全額となる、3896万926円（沖縄県：3000万円、沖縄美ら島財団：896万926円）を贈呈した。

(6) 海外との連携

以下の事業を実施し、国際相互理解の促進に寄与した。

① アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟（AFUCA）の活動振興

第14期「三菱アジア子ども絵日記フェスタ」を、AFUCA加盟団体などと協働して実施した。また、2020年12月にオンラインの執行委員会が行われ、イランユネスコクラブ連盟とパキスタンユネスコクラブ・センター・協会連盟が新たに加盟することが承認された。

② 世界ユネスコ協会クラブ連盟（WFUCA）への協力

WFUCA事務局と継続的に連絡調整を行った。4年に1度行われる世界大会（役員改選も同時に実施）については、2021年への延期が決定した。

③ UNESCO関連団体、支援先等からの要請に基づく協力

フィリピンユネスコクラブ調整委員会が実施した「バンゴンルソン4.0 台風22号 被害者支援のための救援プロジェクト」に、1万ドルの支援を行った。

④ UNESCOとの協力協定事業

2012年2月にUNESCOと締結した「日本国内でのUNESCOに対する資金調達に関する協力協定」に基づき、「UNESCO公式サポーター」企業である全日本空輸株式会社（ANA）より、UNESCOへの寄付が行われた。

2. 海外における平和構築活動

(1) 世界寺子屋運動支援活動

途上国において、公的教育を受けられない大人や子どもを対象に、地域社会開発の拠点ともなるセンター等で、基本的人権である教育の機会を提供することにより、人材育成及び国際相互理解の促進に寄与した。

① アジア地域の途上国における識字・ノンフォーマル教育支援事業実施

A) カンボジア（アンコール寺子屋プロジェクト）

シェムリアップ州内全12郡において、成人向け識字・識字後教育、幼稚園クラス、小学校退学の子どもへの復学支援クラスなどを実施し、合計941人が学んだ。技術訓練及び収入向上活動には390の家庭が参加し、コロナ禍で特に経済的打撃を受けた貧困層の生活維持・向上を支えた。

また、プロジェクト19軒目のスニョオル寺子屋がクロライン郡に完成した。

B) アフガニスタン（アフガニスタン寺子屋プロジェクト）

アフガニスタン教育省識字局と連携し、カブール県、パルワン県、バーミヤン県において20クラスの識字クラスを実施し、448人が9ヵ月間のクラスを卒業した。また、職業訓練クラスは12クラスが行われ、306人が終了した。

2020年10月にはアフガニスタンで17軒目となるバグラミ寺子屋（カブール県中部）が完成し、開所式典には政府関係者や地域住民など100人以上が出席した。また、新型コロナウイルス感染症で困窮した国内避難民キャンプの識字クラスおよび職業訓練クラスの卒業生を対象に、220世帯に食料油や豆などの食糧支援を実施した。

C) ネパール（ネパール寺子屋プロジェクト）

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から一時中断しつつ、感染対策を講じながら150クラスが行われ、世界遺産「ルンビニ」周辺の12地域を中心に2,999人の成人女性が4ヵ月の識字クラスを卒業した。

また、新型コロナウイルス感染拡大の影響による子どもの就学状況や家庭の状況を調べるための世帯調査を、ルンビニの23地域で実施した。

D) ミャンマーでの寺子屋事業展開

バゴー地方域・テゴン、シュエタウン、シュエキン、ダイクウの4地区にて、小・中学校を中途退学して働く若者480人を対象に、読解力促進（識字および

識字後教育) や生活スキルなどの内容を含む「継続教育プログラム」を実施した。新型コロナウイルス感染拡大による中断と、2021年2月の軍事クーデターの影響で、年度内に第1学期のみが終了した。

E) 世界寺子屋運動の将来展開調査

世界寺子屋運動の新規事業開拓のため、対象国において現地調査を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。

F) NHK「日本賞・日本ユネスコ協会連盟賞」の授与

NHK 主催の「日本賞」において、途上国の ESD (持続可能な開発のための教育) を促進する優れた番組企画として、5 パルセフ・アニメーションスタジオ (キルギス) の企画「あこがれの職業」に対し、「日本賞・日本ユネスコ協会連盟賞」を授与した。

G) 書きそんじハガキ回収キャンペーン

2020 年 12 月から 2021 年 5 月を強化期間とし、各地のユネスコ協会・クラブ、企業、諸団体および学校と協力して実施するとともに、ユネスコスクールへの働きかけを行い、全国の 139 ユネスコ協会・クラブが参加した。また、企業や団体の協力によって雑誌や新聞、地方のテレビ番組などでも PR を行った。

H) 世界寺子屋運動協力者対象スタディツアー

世界寺子屋運動に協力するユネスコ協会・クラブや維持会員企業による活動成果の確認を趣旨に、「世界寺子屋運動協力者対象スタディツアー」を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。

(2) 「一杯のスプーン」支援活動

以下の世界寺子屋運動事業地近郊にて、低所得者層の子どもおよび母親を主な対象として、栄養補助・医療支援を実施した。

① ネパール

ルンビニの寺子屋にて、新型コロナウイルス感染予防のための啓発活動を実施した。また、緊急支援として、ロックダウンで経済的に影響を受けた人びと (1,053 世帯) を対象とした食糧支援を、寺子屋を通じて行った。

② アフガニスタン

カブール市内のクリニックでの無償医療活動、薬の提供およびりハビリ治療の支援を行い、のべ約7万8千人が利用した。また、新型コロナウイルス感染拡大への緊急対応として、クリニックに医療品（非接触体温計、個人防護具、消毒液やマスク）を提供するとともに、ロックダウンによって経済的に困窮した約176世帯の人びとに向けて食糧支援を実施した。

③ カンボジア（新型コロナ緊急支援として実施）

シェムリアップ州の寺子屋18軒にて、「衛生用品（マスク、消毒液等）配布」「浄水機修理」「衛生教育」を実施した。また、衛生教育において寺子屋運営委員向けトレーナー研修に197人、研修を受けた運営委員による住民向け研修に809人が参加したのをはじめ、合計6,216人の住民が対象となった。その他、各寺子屋への掲示板・ごみ箱の設置等により、寺子屋を拠点とした衛生意識向上と環境整備を支援した。

④ ミャンマー（新型コロナ緊急支援として実施）

バゴー地方域・タナットピン、ポカウン、オクトウィン、パウンデーの4地区40村にて、布マスクと石鹼のセットを2,111人に配布した。対象は前年度までの「継続教育プログラム」実施村で、主に学習者・教員とその家族、その他高齢者や障害者に届けた。

(3) 世界遺産・地域遺産活動

持続可能な地球社会の実現に向け、世界遺産・地域遺産の保護・保全活動を通じ、有形・無形の文化や自然環境の継承に携わる人材を育成し、地域社会の理解促進を図った。また、一般市民や協力者への広報活動・報告も行った。

① カンボジア・アンコール教育教材開発プロジェクト

世界遺産アンコール遺跡群に近いシェムリアップ州の寺子屋で学ぶ子どもたち104人を対象に、彫像等をモチーフに独自開発した塗り絵教材による授業を行った。また、新型コロナウイルス感染対策を講じながら、2021年2月9日～11日の3日間に分け、遺跡や修復現場を訪問するスタディビジットを実施した。

3. 財務体質の強化

3ヵ年計画に基づき、民間ユネスコ運動の発展の基盤となる財務体質について、多様な手段（募金、寄付金、遺贈、事業収入）を駆使して強化を行った。

(1) 支援者強化

会員、特に維持会員を中心に拡充を行い、同時に、民間ユネスコ運動の協力者や支援者の増強を行った。また、会員証を作成し、維持会員139社に提供した。

(2) 募金者への報告と継続依頼の呼びかけの強化

募金者に対して、募金により実施した事業の成果の報告と、継続的の支援の呼びかけを行った。

(3) 「活動レポート」の制作・発送

募金により実施した事業の成果を募金者に報告するために「ユネスコ活動レポート2019」を24,000部制作・配布した。

(4) 民間資金・公的資金ファンドレイジング企画

企業と日ユ協連の協働が双方にとって意義のある寄付の仕組みを企画立案し、法人や団体に提案、また同時に日ユ協連の事業方針にマッチする公的資金の調査・検討を行った。

Ⅱ 組織

(2021年3月31日現在)

1. 理事 (27) (五十音順) (* 代表理事)

会長	佐藤 美樹 *	朝日生命保険相互会社 取締役会長	非常勤<維持>
副会長	青木 保	ICOM日本委員会 顧問	非常勤<賛助>
副会長	引地 瑠美子	白石ユネスコ協会 顧問	非常勤<個人>
理事長	鈴木 佑司 *	法政大学 名誉教授	非常勤<会推>
理事	安達 仁美	信州大学教育学部 准教授	非常勤<個人>
理事	及川 幸彦	東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター主幹研究員	非常勤<個人>
理事	大津 和子	北海道ユネスコ連絡協議会 会長	非常勤<個人>
理事	片島 康彦	株式会社電通 総務局 社会貢献部 シニア・ディレクター	非常勤<維持>
理事	工藤 昌雄	盛岡ユネスコ協会 会長	非常勤<構成>
理事	小池 治	特定非営利活動法人鎌倉ユネスコ協会 理事	非常勤<構成>
理事	齋藤 雅之	株式会社オリエントコーポレーション 特別顧問	非常勤<会推>
理事	芝本 和己	和歌山ユネスコ協会 会長	非常勤<構成>
理事	白石 勝洋	久留米ユネスコ協会 会長	非常勤<構成>
理事	鈴木 郁香	柏ユネスコ協会 理事	非常勤<青年>
理事	外岡 学	札幌ユネスコ協会 副会長	非常勤<構成>
理事	名取 亮介	長野ユネスコ協会 理事	非常勤<青年>
理事	南口 純一	公益財団法人全国税理士共栄会文化財団 顧問	非常勤<会推>
理事	二瓶 和敏	二瓶総合法律事務所 弁護士	非常勤<個人>
理事	東 良和	沖縄ツアーリスト株式会社 代表取締役会長	非常勤<維持>
理事	平井 花画	岐阜県ユネスコ協会 会長	非常勤<構成>
理事	牧 貞夫	エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社 相談役	非常勤<維持>
理事	松岡 盛人	広島ユネスコ協会 会長	非常勤<構成>
理事	宮下 晶子	特定非営利活動法人目黒ユネスコ協会 会長	非常勤<構成>
理事	安田 昌則	大牟田市教育委員会 教育長	非常勤<個人>
理事	吉崎 晴子	認定特定非営利活動法人市川市ユネスコ協会 会長	非常勤<構成>
理事	吉田 敦彦	大阪府立大学 副学長	非常勤<会推>
理事	吉田 達哉	新居浜ユネスコ協会 会長	非常勤<構成>

(注) <構成> : 構成団体会員代表、<賛助> : 賛助団体会員代表、<個人> : 個人会員代表、
<維持> : 維持会員代表、<青年> : 青年代表、<会推> : 会長推薦

2. 監事 (3)

監事	田口 修央	ANAホールディングス株式会社	サステナビリティ推進部 担当部長	非常勤
監事	永野 博	港ユネスコ協会	会長	非常勤
監事	増田 正志	増田公認会計士事務所	公認会計士	非常勤

3. 名誉会長 (1)

大橋洋治

4. 顧問 (11)

加藤玲子	児島 仁	千 玄室	千葉果弘
西村幸夫	野口 昇	濱中昭一郎	福原義春
松浦晃一郎	村田昌志	米田伸次	

5. 評議員数

会員種別	人数	定員
構成団体会員	99人	100人以内
(うち青年代表)	(9人)	(9人以内)
(うち国内委員会委員)	(8人)	(9人以内)
賛助団体会員	2人	5人以内
個人会員	26人	30人以内
維持会員	10人	15人以内
計	137人	150人以内

6. 会員数

会員種別	2019年度末	減	増	2020年度末
構成団体会員	278	4	2	276
賛助団体会員	19	1	1	19
個人・終身個人会員	247	24	6	229
維持会員	141	4	7	144
計	685	33	16	668

7. 会員の異動

構成団体会員

<入会> 2

富谷ユネスコ協会

2020年5月16日第535回理事会承認

一戸ユネスコ協会

2020年5月16日第535回理事会承認

<退会> 4

大田原ユネスコ協会、多度津ユネスコ協会、高鍋ユネスコ協会、
山口県青年ユネスコ連絡協議会

賛助団体会員

<入会> 1

世界子孫代理人会

2020年9月12日第536回理事会承認

<退会> 1

個人会員

<入会> 6

<退会> 24

維持会員

<入会> 7

株式会社アルファ

2020年5月16日第535回理事会承認

帝人株式会社

2020年9月12日第536回理事会承認

株式会社ディッジ

同上

東急不動産ホールディングス株式会社

2020年11月14日第537回理事会承認

日比谷総合設備株式会社

同上

新菱冷熱工業株式会社

2021年1月16日第538回理事会承認

清水建設株式会社

2021年3月13日第539回理事会承認

<退会> 4

8. 地域的なユネスコ活動の領域を代表する日本ユネスコ国内委員会委員(2021年3月末現在)

北海道	林 朋子 (旭川ユネスコ協会会長)
東北	見上 一幸 (仙台ユネスコ協会会長)
関東・甲信越	木間 明子 (朝日生命ユネスコクラブ副会長)
関東・甲信越	石井 尚子 (厚木ユネスコ協会副会長)
中部	箕浦有見子 (岐阜県ユネスコ協会青年担当理事)
近畿	片山 勝 (長浜ユネスコ協会会長)
中国	岡崎 環 (宮島ユネスコ協会副会長)
九州	市丸 祥子 (久留米ユネスコ協会総務)
全国的連合組織	佐藤 美樹 (公益社団法人日本ユネスコ協会連盟会長)
全国的連合組織	鈴木 郁香 (公益社団法人日本ユネスコ協会連盟理事)

Ⅲ 会 議

1. 総会

第70回定時総会

日 時 2020年6月13日(土) 14:30~15:10

場 所 大手町サンスカイルーム 27階 A室

議 長 会長 佐藤 美樹

議決権を有する社員の総数 670名

総議決権数 670個

出席社員数 528名(委任状提出者を含む)

出席の社員が有する議決権数 528個

【決議事項】

第1号議案 2019年度事業報告書(案)及び計算書類等(案)

【報告事項】

1. 2019年度事業計画書及び予算書
2. 「評議員選任に関する規程」「役員選任に関する規程」の改定
3. 「会員に関する規程」の改定

2. 理事会

第535回理事会

日 時 2020年5月16日(土)(書面表決による開催)

議 長 会長 佐藤 美樹

議 題

I. 決議事項

1. 会員の入会
2. 剰余金の用途および特定資産「公益事業維持資産」の新設(案)
3. 2019年度事業報告書(案)及び2019年度計算書類等(案)
4. 「評議員選任に関する規程」「役員選任に関する規程」の改定および「選考委員会運営細則」の制定(案)
5. 「会員に関する規程」の改定(案)
6. 第71回定時総会の開催(案)
7. 2020年度のブロック別ユネスコ活動研究会の中止(案)

II. 報告事項

1. 代表理事の職務執行状況(2020年1月理事会~5月15日)
2. 2020年度事業計画進捗状況

第536回理事会

日 時 2020年9月12日(土) 14:45~15:55

場 所 オンライン開催

議 長 会長 佐藤 美樹

出席理事数 25名 ※理事総数27名

議 題

- I. 第533回理事会(2020年1月開催)議事要録(案)の承認
- II. 協議事項
 1. 会員の入会
 2. 部会等からの報告・提案事項等
 - (1) 地域代表・青年代表理事会議(8/29)
 - (2) 財務部会(9/4)
 3. 災害子ども教育支援事業(仮称)の立ち上げ(案)
 4. 「経理規程」の改定(案)
 5. その他
- III. 報告事項
 1. 青少年ユネスコ活動助成緊急第二次募集・採択状況
 2. 「世界寺子屋運動」実施4カ国(アフガニスタン、カンボジア、ネパール、ミャンマー)における、新型コロナウイルス対策の支援プログラムの開始
 3. 「SDGsの達成に貢献する民間ユネスコ運動」動画配信の開始
 4. 「アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム」実施計画
 5. 第147回日本ユネスコ国内委員会総会報告
 6. 代表理事の職務執行状況報告(2020年5月17日~9月11日)
 7. 2020年度事業計画進捗状況
 8. 遺贈に関する対応方針
 9. 後援・共催事業
 10. 事務局人事(4/1付)
 11. その他

第537回理事会

日 時 2020年11月14日(土) 14:15-16:15

場 所 オンライン開催

議 長 会長 佐藤 美樹

出席理事数 21名 ※理事総数27名

議 題

- I. 第536回理事会議事要録(案)の承認
- II. 決議事項
 1. 会員の入会
 2. 災害子ども教育支援事業(仮称)の立ち上げ(案)
 3. 役員(理事・監事)及び評議員の選任に関する選考委員会の設置
- III. 協議事項
 - ・ 部会等からの報告・提案事項等
 - (1) 財務部会(11/5)
 - (2) 組織部会(11/9)
 - (3) 地域代表・青年代表理事会議(11/14)

IV. 報告事項

1. 2020年度中間決算報告
2. 首里城復興ユネスコ募金の贈呈
3. 「アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム オンライン教員研修会」実施報告
4. 代表理事の職務執行状況報告(2020年9月13日～11月13日)
5. 2020年度事業計画進捗状況
6. 後援・共催事業
7. 情報セキュリティ監査報告
8. 事務局人事(10/1)
9. 今後の活動における動画配信の活用依頼
10. その他

第538回理事会

日 時 2021年1月16日(土) 14:00-16:00

場 所 オンライン開催

議 長 会長 佐藤 美樹

出席理事数 19名 ※理事総数27名

I. 第537回理事会議事要録(案)の承認

II. 決議事項

1. 会員の入会
2. 特定資産「国際協力活動推進基金引当資産」の名称変更

III. 協議事項

1. 部会等からの報告・提案事項等
 - (1) 財務部会(12/24書面開催)
 - (2) 組織部会(1/12)
 - (3) 地域代表・青年代表理事会議(1/16)
2. 2021年度事業計画書(案)・収支予算書(案)

IV. 報告事項

1. 第51回評議員会にて提出された意見(第51回評議員会議事要録より)
2. 選考委員会報告
3. 2020年度 事業進捗報告
4. 代表理事の職務執行状況報告(2020年11月14日～2021年1月15日)
5. 2020年度事業計画進捗状況
6. 後援・共催事業
7. 2021年度以降理事会・評議員会等の日程(予定)
8. 第52回評議員会(1/30(書面開催)議題)
9. その他(日本ユネスコ国内委員会の「ユネスコ共創プラットフォーム事業」について)

第539回理事会

日 時 2021年3月13日（土）14:00-16:00

場 所 オンライン開催

議 長 会長 佐藤 美樹

出席理事数 24名 ※理事総数27名

I. 第538回理事会議事要録(案)の承認

II. 決議事項

1. 会員の入会

2. 2021年度事業計画書(案)・収支予算書(案)

(1) 2021年度事業計画書(案)

(2) 2021年度収支予算書(案)、資金調達及び設備投資の見込み(案)

III. 協議事項

・部会等からの報告・提案事項等

(1) 財務部会(3/3)

(2) 組織部会(3/9)

IV. 報告事項

1. 第52回評議員会にて提出された意見（第52回評議員会議事要録より）

2. 選考委員会報告

3. 2020年度 事業進捗報告

4. 代表理事の職務執行状況報告(2021年1月16日～2021年3月12日)

5. 後援・共催事業

6. 第53回評議員会(5月開催予定)の運営

7. 日本ユネスコ国内委員会報告

8. その他

3. 評議員会

第51回評議員会

日 時 2020年11月28日（土）（書面開催）

議 長 会長 佐藤 美樹

出席評議員数（回答書提出評議員数）103名 ※評議員総数138名

議 題

1. 部会等からの報告

(1) 組織部会

(2) 財務部会

(3) 地域代表・青年代表理事会議

2. 役員（理事・監事）及び評議員の選任に関する選考委員会の設置

3. 青少年ユネスコ活動助成緊急第二次募集・採択状況

4. 2020年度 主要事業報告

(1) 「世界寺子屋運動」実施4カ国（アフガニスタン、カンボジア、ネパール、ミャンマー）における、新型コロナウイルス対策の支援プログラムの開始

- (2) 「SDGsの達成に貢献する民間ユネスコ運動」動画配信の開始
 - (3) 第7回「アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム」オンライン教員研修会
 - (4) 首里城復興ユネスコ募金の贈呈
 - (5) 書きそんじハガキ・キャンペーン2021募集開始
 - (6) ユネスコスクールSDGsアシストプロジェクト
 - (7) 2020年ユネスコ活動グッドプラクティス賞の応募開始
 - (8) 日ユ協連リーダーセミナーの開催
 - (9) カンボジア オンラインスタディツアーの開催
 - (10) ユネスコスクール全国大会 分科会
5. 第147回日本ユネスコ国内委員会総会報告

第52回評議員会

日 時 2021年1月30日（土）（書面開催）

議 長 会長 佐藤 美樹

出席評議員数（回答書提出評議員数）112名 ※評議員総数は137名

1. 部会等からの報告

- (1) 財務部会
 - (2) 組織部会
 - (3) 地域代表・青年代表理事会議
2. 2021年度事業計画書(案)・収支予算書(案)
3. 2020年度 事業進捗報告

(添付) 第51回評議員会 議事要録

※評議員から提出された主な意見等および理事長による返答（今後の対応等）を記載

4. 各種委員会等

(1) 部会等

第531回理事会（2019年7月20日）および第532回理事会（2019年11月16日）（※）で承認された部会等で、民間ユネスコ運動のさらなる発展にむけた審議を行った。

※「知と平和の文化部会」のみ第532回理事会にて承認

① 部会

ア. 組織部会

テーマ・課題：

- ・ 構成団体の入退会、その他の会員の承認等
- ・ 構成団体の運営に関する指導と助言
- ・ 全国大会、ブロック研究会等の運営指針
- ・ 青少年活動及び全国的青年組織の活性化策
- ・ 検討要請事項及び、正副部会長並びに事務局担当部との協議にて決定した事項

部会長：引地瑠美子（副会長）

部会員：二瓶和敏（理事/副部会長）、宮下晶子（理事）、鈴木郁香（理事）、

串田昭光（評議員（高崎ユネスコ協会））

リソースパースン：安達仁美(理事)

開催日：2020年11月9日(オンライン開催)、2021年1月12日(オンライン開催)、
3月9日(オンライン開催)

イ. 財務部会

テーマ・課題：

- ・財務構造の明確化、財務基盤の強化策（維持会員の拡充や遺贈の増強等）
- ・広報担当理事と連携したメディア活用の在り方
- ・検討要請事項及び、正副部会長並びに事務局担当部との協議にて決定した事項

部会長：牧貞夫(理事)

部会員：東良和(理事/副部会長)、片島康彦(理事)、
平松哲郎(評議員(維持会員 日本土地建物株))

開催日：2020年9月4日(オンライン開催)、11月5日(オンライン開催)、
12月24日(書面開催)、2021年3月3日(オンライン開催)

ウ. 定款・諸規程改定検討部会

テーマ・課題：

- ・評議員および役員の選任に関する制度の見直し
- ・検討要請事項及び、正副部会長並びに事務局担当部との協議にて決定した事項

部会長：二瓶和敏(理事)

部会員：小池治(理事)、見上一幸(評議員(仙台ユネスコ協会))

開催日：2020年4月15日(書面開催)

エ. 知と平和の文化部会

テーマ・課題：

- ・ユネスコの原点に立ち返り、長期的視点から教育、そして文化が果たす平和に対する役割とその今日的意味を明らかにする
- ・民間ユネスコ協会・クラブによる平和への取り組みの現状を把握し、地域における取組に寄り添いながらその伸張を促す新たな理念と企画を提供する
- ・検討要請事項及び、正副部会長並びに事務担当部との協議にて決定した事項を審議する

部会長：青木保(副会長)

部会員：吉田敦彦(理事/副部会長)、小池治(理事)、南口純一(理事)、安達仁美(理事)

開催日：未開催(コロナ禍により見合わせ)

② 地域代表・青年代表理事会議

テーマ・課題：

- ・地域内外および地域を超えた今後の民間ユネスコ運動のあり方の構築と理事の役割
- ・地域ユ協と連盟との連携促進策
- ・会長要請事項及び議長、副議長並びに事務局担当部との協議にて決定した事項

議長：白石勝洋

地域代表理事：吉崎晴子(副議長)、外岡学、工藤昌雄、宮下晶子、小池治、平井花画、
芝本和己、松岡盛人、吉田達哉

青年代表理事：鈴木郁香、名取亮介

開催日：2020年8月29日(オンライン開催)、11月14日(オンライン開催)、
2021年1月12日(オンライン開催)、4月10日(オンライン開催)

③ 連盟幹部会

役割：統一的施策をスピーディーに実行すべく、各部会・会議間の連携を図る。

構成メンバー：佐藤美樹(会長)、青木保(副会長/知と平和の文化部会長)、引地理美子
(副会長/組織部会長)、白石勝洋(理事/地域代表・青年代表理事会議長)、
二瓶和敏(理事/定款・諸規程改定検討部会長)、牧貞夫(理事/財務部会長)、鈴木佑司(理事長)

開催日：2020年9月11日(オンライン開催)、11月13日(オンライン開催)、
2021年1月15日(オンライン開催)、3月12日(オンライン開催)

④ 担当理事との会合

ア. 広報関連担当理事との会合

広報関連担当の東良和理事および財務部会と連携し、日ユ協連の企画・広報のあり方等について媒体及びIT手法(Twitter、Yahoo 広告等)について議論し、その一部を実施した。

イ. 未来遺産関連担当理事との会合

未来遺産関連担当の牧貞夫理事と未来遺産運動に関する協議、報告をおこなった。

ウ. 減災教育・復興支援担当理事との会合

減災教育・復興支援担当の及川幸彦理事と「アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム」、「ユネスコ協会就学支援奨学金」、「(新規)災害子ども教育支援事業(仮称)」等に関する打ち合わせを逐次行った。

エ. ユネスコスクール関連担当理事との会合

ユネスコスクール関連担当の安田昌則理事とユネスコスクール事業展開に関する協議打ち合わせ等を逐次行った。また、2020年12月6日に開催されたユネスコスクール全国大会・ESD研究大会における当連盟の分科会のコーディネーターを務めていただいた。

(2) 未来遺産委員会

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、「プロジェクト未来遺産」登録事業の中止に伴い、未開催。

附属明細書

2020 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2021 年 6 月

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟